

おしえて!



わん🐾にゃん通信



2018/3/30 No.11

日中に暖かい日差しを感じ、満開の桜や桃の花を見かけるくらい暖かくなってきました。この時期になると花粉症の方の目が、痒みで赤く充血しているのをよく見かけます。ところで皆さんは、わんちゃんやねこちゃんの白目部分を見たことがありますか？わんちゃんねこちゃんの顔を見ると、人の様に白目が見えず、黒目がちで大きな目が可愛らしいですね。白目が常に見えている動物は主に人間だけだと言われています（動物は逃走方向を悟らせない為に白目が見えない、人はコミュニケーションの為に見えているという説などがあります）。今回は普段あまり見ることが無い、白目の部分などに症状が現れる目の病気をいくつかご紹介しますので、参考にしてみてください。

〔結膜炎〕

わんちゃんねこちゃんの目の構造自体は人とよく似ています。結膜とはまぶたの裏側と眼球の表面を覆う膜のことで、この結膜が炎症を起こすことを結膜炎と呼びます。異物などの接触や細菌性、ウイルス性、アレルギー性、乾燥など原因は様々です。細菌性やウイルス性は白目が赤くなったり、涙や膿のような目やにがでたりします。アレルギー性だと痒みがあり、乾燥だと目が乾くことで痛がったり粘り気のある目やにがでます。シーザー、パグ、チワワ、キャバリア、フレンチブルドックなど、目がでている犬種はなりやすいと言われています。ねこちゃんは猫同士の喧嘩や遊びの最中に手や爪が目当たってしまうことで、炎症の原因になることがあります。



〔白内障〕

人でもよく聞く有名な病気だと思いますが、わんちゃんやねこちゃんも白内障があります。白内障は黒目の後ろにある水晶体が白く濁ってくる病気です。少しずつ濁っていくので、早期発見が難しく、徐々に視力が落ちていきます。原因も様々なので予防も難しくなります。糖尿病の合併症で発症する場合や、加齢に伴って多くなる傾向がありますが、遺伝的に若齢で発症する場合があります。白内障を放置すると、白く濁った水晶体の内容物が眼の中に漏れ出し、ブドウ膜炎に炎症をおこります。ブドウ膜炎が起こると緑内障を続発することがあります。



お家で気付いてあげるポイント・・・

- ・知らない場所で壁や物にぶつかる
- ・ボールを投げていても気が付かない
- ・段差につまずく
- ・散歩を嫌がるなど見えないことから行動が控えめになる

などがあります。

水晶体は一度濁ると元に戻らないのですが、なるべく早めに気が付いてあげられることで初期の場合、目薬で進行を遅らせてあげることが出来ます。

他にも黒目が白く見えるという点で白内障と間違えやすい、核硬化症というものがあります。白内障の様に水晶体の中心が青白く見えますが、老化現象の1つで、視覚を失うことはありません。

〔緑内障〕

激しい痛みが伴い、失明に至る病気です。

目の中の水（眼房水）が溜まりすぎ、目の内側から外側に強い圧力がかかる（眼圧が高くなる）ことで、激しい痛みを感じます。自然発生する場合と他の病気によって発生する場合があります、発症から短時間で失明するといわれているので、緊急の治療が必要になります。

強い痛みのために・・・

- ・ 食欲がおちる
- ・ 目を閉じたりしょぼしょぼさせる
- ・ 縮こまって震える
- ・ 白目の強い充血
- ・ 黒目の拡大や白濁

などの症状があります。



〔目薬を差すポイント〕

わんちゃんねこちゃんに目薬を差すのは大変ですが、目の治療には目薬が欠かせません。驚かせたり、時間をかけないことが目薬を差すポイントになります。

- ・ 冷たさで驚かせないよう室温に戻しておく
- ・ 袋から出す音に反応するようならあらかじめ出しておく
- ・ 下を向かないようアゴの下に手を添える
- ・ 目薬が見えないよう後ろからさす（容器が目、まつげ、瞼に触れないように）
- ・ 瞼を開けて白目に落とす（数種類さす場合は10分くらい間隔をあける）
- ・ 終わったらご褒美をあげる

目は一番見ることの多い顔についているので、症状に気づきやすい場所だと思います。人は触るのを我慢することが出来ますが、わんちゃんねこちゃんは自力でどうにかしようと余計に掻くことで悪化させてしまいます。もちろん、強い痛みを言葉で伝えることもできません。治る病気なら治療が長引かないよう早めの治療を、治らない病気なら早めのケア（暗い時間や光が強すぎる時間の散歩控える、家の中の障害物を取り除いてあげる、視覚にあまり頼らない鼻を使った遊びをしてあげるなど）をしてあげることが大切になります。

目を見てあげて、少しでも違和感を覚えたらお気軽にご相談ください。